

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]

(令和7年10月解析分)

◎ 今月のトピックス

■ つつが虫病に注意しましょう！

- つつが虫病は、ダニの仲間であるツツガムシによって媒介される感染症です。
- 潜伏期間5～14日の後、高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なダニの刺し口がみられ、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられるようになります。
- 予防のためには、ツツガムシに吸着されないことが大切です。
- 秋に、農作業や山菜採り等、野外で活動をする際は、つつが虫病に注意しましょう。

■ ツツガムシについて

- ・ ツツガムシは土壌中で生活していますが、一世代に一度、卵から孵化した後の幼虫期にだけ地表に出て、哺乳動物に吸着し動物の組織液を吸います。このとき、病原体（つつが虫病リケッチアという細菌の仲間）を持ったツツガムシ（幼虫）に吸着されると、感染します。ツツガムシの0.1～3%が病原体を持っているといわれています。
- ・ 広島県で確認されているタテツツガムシおよびフトゲツツガムシはほぼ全国に分布し、秋～初冬に孵化し地表に出てくるため、この時期に患者の発生が多くみられます。降雪のある地域では、一部のツツガムシが越冬し、融雪と共に活動が活発になるため春～初夏にも発生がみられます。
- ・ ツツガムシ自体は0.2～0.3mm程度と非常に小さく、肉眼で確認したり、吸着されたことを自覚できることはほとんどありません。



フトゲツツガムシの幼虫の標本

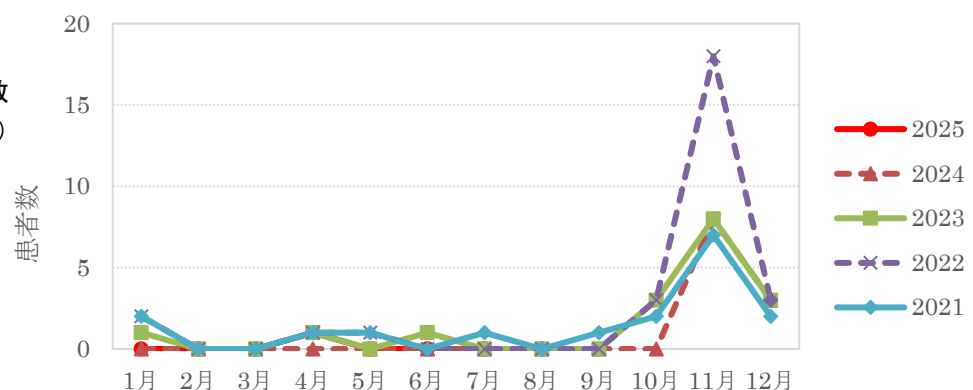
■ つつが虫病にならないためにできること

- ・ ツツガムシの吸着を防ぐことが重要です。農作業や山野で活動する際は、以下の対策をしましょう。
 - ☑長袖、長ズボンを着用して皮膚の露出を避けましょう。長靴をはくのも良いでしょう。
 - ☑袖口やズボンの裾を入れ込んで、ツツガムシが服の中入り込めないようにしましょう。
 - ☑肌が出る部分には、防虫スプレーを使用しましょう。
 - ☑作業後は、体や服を野外ではたき、帰宅後は入浴して身体をよく洗いましょう。
- また、着ていた衣服は放置せずすぐに洗濯しましょう。

■ 野外活動後に発熱等があれば医療機関を受診しましょう

- ・ 感染した場合は、早期に適切な抗菌薬による治療が行われることが重要です。
- ・ 農作業や山に行った後に、高熱等の体調不良があれば、医療機関を受診しましょう。

広島県における
つつが虫の月別発生数
(2021年～2025年8月)



2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症 令和7年9月分(令和7年9月1日～令和7年10月5日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	急性呼吸器感染症(ARI) ※2	24,012	51.09	-	↗	11	突発性発しん	44	0.15	0.29	↘
2	インフルエンザ ※3	160	0.34	0.27	↗	12	ヘルパンギーナ	112	0.39	0.54	↓
3	新型コロナウイルス感染症(covid-19) ※1	3,608	7.68	-	↗	13	流行性耳下腺炎	8	0.03	0.03	
4	RSウイルス感染症	362	1.27	1.46	↑	14	急性出血性結膜炎	2	0.02	0.01	
5	咽頭結膜熱	93	0.33	0.25	↗	15	流行性角結膜炎	123	1.29	0.30	↗
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	475	1.67	0.72	↗	16	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
7	感染性胃腸炎	1,114	3.91	2.37	→	17	無菌性髄膜炎	5	0.05	0.02	
8	水痘	35	0.12	0.07	↘	18	マイコプラズマ肺炎	108	1.08	0.35	↘
9	手足口病	104	0.36	2.04	↗	19	クラミジア肺炎 ※4	0	0.00	0.00	
10	伝染性紅斑	416	1.46	0.00	↘	20	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.00	0.00	

※1 R5年第19週(5/8～)から五類に変更。※2 咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、医師が感染症を疑う外来症例に該当する患者数を計上(他の定点把握疾患として報告されている患者数(No.2～6及び12)を含む) ※3 鳥インフルエンザを除く ※4 オウム病を除く

(2) 定点把握(月報)五類感染症 令和7年8月分(8月1日～8月31日)

No	疾 患 名	月間 発生数	定点 当たり	過去5年 平均	発生 記号	No	疾 患 名	月間 発生数	定点 当たり	過去5年 平均	発生 記号
21	性器クラミジア感染症	76	3.45	3.58	↗	25	メシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	65	3.25	3.28	➡
22	性器ヘルペスウイルス感染症	25	1.14	0.91	↗	26	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0.00	0.08	
23	尖圭コンジローマ	14	0.64	0.68	↘	27	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.04	
24	淋菌感染症	27	1.23	1.18	➡	※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり) ※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。					

急増減疾患!! (定点当たり前月比2倍以上増減)

○急増疾患 RSウイルス感染症 (0.52 → 1.27)
○急減疾患 ヘルパンギーナ (0.80 → 0.39)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象20疾患、月報対象7疾患)について、県内155の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1、2、3	1～13	14、15	21～24	16～20、25～27	
定点数	37	57	19	22	20	155

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類等感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	24	結核(24)〔西部東保健所(1)、東部保健所(7)、北部保健所(1)、広島市保健所(8)、呉市保健所(1)、福山市保健所(6)〕
三類	8	腸管出血性大腸菌感染症(8)〔東部保健所(1)、北部保健所(2)、呉市保健所(1)、福山市保健所(4)〕
四類	15	A型肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕 E型肝炎(1)〔東部保健所(1)〕 つつが虫病(1)〔東部保健所(1)〕 レジオネラ症(5)〔西部保健所(1)、広島市保健所(2)、呉市保健所(1)、福山市保健所(1)〕 日本紅斑熱(7)〔西部保健所(1)、東部保健所(5)、福山市保健所(1)〕
五類	389	アメーバ赤痢(1)〔福山市保健所(1)〕 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(3)〔西部保健所(1)、福山市保健所(2)〕 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)(2)〔広島市保健所(2)〕 梅毒(32)〔西部保健所(2)、西部東保健所(1)、東部保健所(3)、広島市保健所(18)、呉市保健所(2)、福山市保健所(6)〕 百日咳(351)〔西部保健所(21)、西部東保健所(128)、東部保健所(41)、北部保健所(1)、広島市保健所(99)、 呉市保健所(21)、福山市保健所(40)〕